## ステークホルダーのみなさまへ



世界中の社員が一丸となり、中期ビジョンを達成し、 オリンパスの再生、企業価値の向上、 そして株主価値の向上を図ってまいります。 ステークホルダーのみなさまには、当社の過去の損失計上の先送り等に係る一連の問題により、 多大なるご迷惑とご心配をおかけしておりますことを、心よりお詫び申し上げます。

## 2012年3月期の総括

2012年3月期は、当社にとっては、経営トップの交代、 損失計上の先送り等に係る事実の判明、過年度決算の訂 正、東京証券取引所による当社株式の特設注意市場銘柄 の指定、経営体制の刷新など、創業以来最大の危機とも言 うべき、大変厳しい年となりました。

こうした中、連結業績については、世界的な景況感の悪化、さらなる円高の進行、東日本大震災、タイの洪水など、多くの外部要因の影響に加え、この一連の問題がございましたが、通期ではこれらの影響をすべて吸収し、売上高、営業利益ともに、前期と同水準まで回復しました。しかしながら、当期純利益に関しましては、構造改革を一段と加速させる中で、厳格に資産等を再評価したことによる損失などを計上したために純損失を計上する結果となりました。このため、誠に遺憾であり申し訳なく存じますが、2012年3月期末の配当は見送りとさせていただきました。

製品面においては、医療、ライフ・産業、映像分野で大型の新製品を投入することができました。このように、2013年3月期以降の業績貢献に期待できるよう、すでに着実に布石を打っています。新体制の1年目である2013年3月期は、黒字転換に向けて取り組みを進めてまいります。

木本 泰行 取締役会長

## 新しいオリンパス創生に向け、新経営体制による 中期ビジョン「原点回帰」を策定

2012年4月20日の臨時株主総会におきまして、株主のみなさまからご信任をいただき、新経営体制が発足しました。新経営陣に課せられたミッションは、一刻も早く、毀損したブランドとみなさまからの信頼を取り戻すことです。そのためには、二度とこのような問題が起こらないように、経営の仕組みを抜本的に改革します。

新経営体制のもと2012年6月に発表した中期ビジョンでは、抜本的な事業構造改革を掲げました。「原点回帰」という中期ビジョンのスローガンが示すように、本業すなわち「医療」「ライフ・産業」「映像」事業への集中を徹底し、さらにコスト構造、生産構造まで抜本的な改革に踏み込んだ内容となっています。これは短期的な収益改善策とは本質的に異なるものです。この中期ビジョンを必ず達成し、新しいオリンパスを創生し、さらに強い事業、財務体質に生まれ変わります。

最後に、当社は一日も早い信頼の回復と企業価値の向上に向けて、コーポレート・ガバナンスの徹底的な強化にすでに取り組んでいます。世界中の社員が一丸となり、また全社の英知を結集してこの中期ビジョンを達成し、オリンパスの再生、企業価値の向上、そして株主価値の向上を図ってまいります。

笹 宏行 代表取締役社長執行役員